

## ①掃部山公園・野毛山公園のさくらを満喫するガイド

催行日：3月27日（水） 集合：地下鉄高島町駅 9:30

行程：地下鉄高島町駅→戸部大通り商店街→岩亀神社→掃部山公園→  
横浜能楽堂→神奈川奉行所跡→伊勢山皇太神宮→成田山横浜別院・野毛山入口の擁  
壁→野毛山公園→配水池（解散）（野毛山動物園・桜木町へ）

今回の資料は、何故ここにこんなものが出来たのか？という歴史の原点を紹介します。  
これを読んで行くと野毛山一帯は、横浜港の開港に全て結びついているのが判ります。

### ◆何故、高島町に遊郭が出来たのか？

遊郭があった証となるのが、「岩亀神社」です。岩亀神社は、昔は岩亀稲荷と言われていま  
した。「岩亀稲荷と岩亀横丁の由来」によると、遊女たちが病に倒れた時に静養する寮が現在  
の岩亀横丁にあり、遊女たちの信仰するお稲荷さんが岩亀稲荷だ  
たのです。



日米通商条約が結ばれ長崎、函館、横浜の3港が、1859年（安  
政6年）に貿易を行う開港場に決まった。

幕府は、東海道と横浜を結ぶ横浜道を造成し、港の中央に外交・  
貿易事務を行う運上所と役宅を建設。併せて、江戸、神奈川などの  
商人に横浜出店を命じた。そして、外国人を横浜に引きつけてまた  
町の繁栄を図るため、江戸の吉原に似た遊郭の建設を企画したので  
ある。最初は、大田屋新田（今の横浜スタジアム付近）の港崎町（み  
よざきちょう）に設置された。多くの遊女屋が軒を並べ大変繁盛し  
たという。

ところが、1866年（慶応2年）11月、大火のために「港崎町遊郭」は焼失。翌年、  
吉田新田の沼地を埋めたと移転した矢先のさらに1872年またもや大火事が起き、遊郭は高  
島町に移転することになった。

当時、高島町は開港して港と街が大きく開き始め、東海道から関内・野毛、保土ヶ谷宿へ  
と結ぶ大きな街道でもあった。北から南へ向かって行く人、江戸へ向かって北上する人、山  
の方から海へ向かって降りてきて商売する人、様々な人や荷馬車などが行き交う賑やかさが  
あった。もう一つの理由は、近くにイギリス軍、フランス軍の軍隊があったからで、それは  
外国人が襲われることを防ぐためであった。

港崎町遊郭は、明治10年に真金（まがね）・永楽（えいらく）町へ移転し幕を閉じた。

\*岩亀神社の土地は、隣のレストランの所有である。因みに4代目で5代目は生まれていな  
いので終わるかも？

◆何故、掃部山と呼ばれるようになったのか？掃部山は、江戸時代までは海に面した高台で、  
「不動山」と呼ばれていた。

明治初期になると「**鉄道山**」と呼ばれるようになる。

それは鉄道敷設に携わった鉄道技師の官舎が建てられていた他、地下から湧く水を蒸気機関車の給水に利用していたことからである。

1884年（明治17年）に旧彦名藩の士族らが買い取って伊井家の所有とし、1909年（明治42年）、横浜開港に貢献したことから横浜開港50年記念に井伊直弼の銅像が建立された。以後、直弼の官位である掃部頭（かもんのかみ）から、「**掃部山**」と呼ぶようになった。

現在も残る公園内の日本庭園は井伊家所有の頃に庭園として造営されたものであろうという。



#### ◆何故、神奈川奉行所がこの地にあったのか？



神奈川奉行所は、横浜の開港直後の1859年（安政6年）に不動山に設置された。開港場建設の事務に当たっていた外国奉行の酒井忠行・水野忠徳・村垣範正・堀利熙・加藤則著の5名に神奈川奉行兼帯の命が下った。5名は輪番で神奈川奉行の職務を行った。不動山が選ばれた理由は、開港場と外国人居留地が一望できたこと、また港を挟んで反対側にある山手の丘に居留民保護の名目で駐留する、イギリス・フランス両国の軍隊を監視できたことであった。

神奈川奉行（かながわぶぎょう）は、江戸幕府の役職。旗本が任じられる遠国奉行の一つである。

神奈川奉行所は攘夷派からの襲撃や治安維持、また国際関係が悪化した場合に英仏横浜駐屯軍への防衛対応目的として警察力・軍事力が整備された。

神奈川奉行所の役人の人数は、時期によって変動があるものの、同心や足軽などを含めれば最大時で1000人を超えたという。

#### ◆何故、横浜に「伊勢神宮」があるのか？

横浜は、1870年（明治3年）開港場となり、貿易の街として急速に発展していった。住民たちは、急速な近代化と共にキリスト教を始めとする舶来の文化や思想の流入により、日々急激な価値観の変動にさらされた。また、当時の横浜の住民たちは、その大半が他地域からの移住者であり、隣人同士の繋がりが希薄で地域共同体としての機能が低かった。

神奈川県は、横浜の精神的支柱とするためと「市民」としての価値観、一体感を植えつけるために神社信仰の確立が必要と考えた。そこで武蔵国の国司が勅命によって伊勢神宮から勧請したと伝わる、戸部村海岸伊勢の森の山上の神明社を同年4月に現在地の野毛山に遷座し、横浜の総鎮守としたのである。

この地が選ばれたのは、1874年（明治7年）建立の伊勢山碑には「諸外国の商館が賑わうさまや、我が国の船の高い帆柱が湾内に林立する様子が手に取るように見える。かかる文明開化の時に際してこの場所を整備し神霊を祀れば、神もこの誠意をお受け下さることと思う。」とある。つまり港と横浜中心部を一望できることが鎮座地に相応しいとして、「伊勢山皇太神宮」が創建されることになったのである。

その年の11月、当時の神奈川県知事井関盛良が太政官と神祇官に建白書を提出。建白書は当社を伊勢神宮の遥拝所とし、県内の総社たる規模に整備することを願い出るものである。翌月許可され天照大御神の神霊が鎮まる正式な神宮であることから、その後の公文書では伊勢の神宮に倣い、「皇大神宮」と称されたのである。

明治7  
神奈川県  
勢山皇大  
参道に建  
「横濱伊  
は「神宮別  
れており、  
今も表参  
の横に残  
る。



年1月に  
により伊  
神宮の表  
立された  
勢山碑に  
宮」と刻ま  
この碑は、  
道大鳥居  
されてい

神奈川県には護国神社が建立されなかったが、その役割は伊勢山が担っている。県知事の着任・離任に際しては、神宮に参拝し奉告祭を執り行うのが慣例となり、かつては県の宗社として、県公式の祭祀の場としての性格が極めて強かった。

#### ◆何故、野毛山公園があるのか？

野毛山は、1859年に横浜が開港すると、開港場より東に外国人が居住、西の野毛山は原善三郎や茂木惣兵衛ら日本人の豪商たち住む高級住宅街であった。この高級住宅街は、関東大震災の復興事業で野毛山は大きく変貌していったのである。



1930年大規模な公園化が進み和洋折衷の趣向を凝らした「野毛山公園」が誕生しました。つまり、野毛山公園は、関東大震災によって生まれたのである。

開園当時は、回遊式日本庭園、西洋庭園、折衷庭園の三つの様式を持っていた。併せて、横浜市立図書館、横浜市震災図書館など公共施設が数をまし多くの市民の憩いの場所であり、横浜の震災復興を少々する空間となった。ところが、1937年、日中戦争以降の野毛山公園は、戦争によって損じ価値そのものが翻弄される。

横浜市街を一望できる野毛山の軍事的位置が高まり横浜連隊区司令部などが設置される。1941年の日米開戦では野毛山公園に高射砲陣地が造営され、一般市民の憩いの場所・野毛山公園は戦争によって奪われてしまったのである。

そして終戦、横浜大空襲によって焼け野原となって横浜に米軍が進駐し横浜の大部分は米軍に接収され、野毛山公園も一時期占拠された。折衷解除された野毛山公園は、労働運動の集会所や日本貿易博覧会の会場として使用され震災復興期と同様横浜市復興の象徴となり、多くの市民が集い再び市民の憩いの場所を取り戻した。

### ◆何故、野毛山が水道の終着点だったのか？

1887年（明治20年）に横浜で水道が給水を開始された。その時点で水道が使用できたのは、現在の日の出町駅前から海岸線と平行に延びている道路から海岸までの平坦な地域であった。山手等の高台は給水範囲から除かれていた。

この平坦な地域に水道水を自然流下（ポンプで水道水を高台に圧送せずに、重力の力を利用して高地から低地に水道水を送ること。）で給水することができるようにしなければならなかった。



それを実現するには、横浜の市街路と最も高い所と約20メートルの落差がある上に作らなくてはならない。

また、高さだけでなく市民と外国人の生活と工業用及び消防用などを含めた量を浄化し配水する池を作る広さが必要であった。

野毛山公園は、面積が91000㎡、標高が38mと適正であったことから浄水場は作られたと考えられる。

この野毛山浄水場で処理する水は相模川上流にある相模原市緑区三井で取水したため、相模原市緑区三井から野毛山浄水場（現在の野毛山公園）までの間に水道管を布設して、取水した相模川の水を運ぶことにした。この水道管が布設されている土地の一部が道路として利用されたため、この道路は通称「水道道」と呼ばれていた。

なお、野毛山浄水場は1923年（大正12年）関東大震災の被災により使用できないほどの被害を受けたため廃止した。

浄水場が野毛山公園にあったから、この地点が終着点となった訳である。